

Case-2 ホテル杉長

ホテル杉長は京都の真ん中という好立地と静けさを兼ね備えたホテルとして、一般のお客様はもちろん、多いときには年間3万人を超える修学旅行生を迎え入れるなど、昭和41（1966）年の開業以来、長きに亘り京都の観光を支えています。快適なお部屋・館内設備に加え、京料理を含む繊細で華やかなお料理を提供し、訪れる旅行者を魅了しています。



【会社概要】

※ 2023年3月31日時点

会社名 | 株式会社ホテル杉長
本社所在地 | 京都府京都市中京区富小路通御池上ル守山町172
事業内容 | ホテル・宿泊業

運営施設数 | 1施設
従業員数 | 16名
客室数 | 54部屋

CO₂ 排出量可視化ツール導入概要

測る



『可視化ツールの導入を考え始めたきっかけ・知った場面』

- ・ 環境保護に加え、経費削減にも繋がる点で、導入検討を始めた。

『可視化ツールの導入の決め手』

- ・ SDGs など時代の潮流も踏まえ脱炭素化していきたいと考えていたものの、実際にどのくらいの量が排出されているのかを把握できていなかった。しかし、排出量を把握しないことには今後の取組の方向性も見えないと考え導入した。

『導入した可視化ツール』

- ・ DeTS(Decarbonising Tourism System)<https://www.dts2050.com/>（提供事業者：東武トップツアーズ株式会社、株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所）

『導入時期・範囲』

- ・ 2021年に導入

『ツール導入・活用において苦労した点・悩んだ点、対応策』

- ・ 建物の改築時に府の条例に則って太陽光パネルを設置したが、それが上手く機能しているかどうかを把握できていない。
- ・ 脱炭素化に向け、具体的取組内容を書面に落とし込んで従業員向けに啓発することは行っておらず、今後実施していきたい点である。
- ・ 自社HPで脱炭素について発信するには至っておらず、取組や効果を外部に発信する点においてはまだ難しい部分がある。

効果



『導入効果』

- ・可視化の結果を社員に公表し、目標の達成に向けて気づいた人が不要な空調や電気等を消すように働きかけるなど、社員向けに取組の必要性や効果等を説明する際に活用している

ツール活用に関する今後の取り組み

- ✓可視化ツールを活用して、対外的にアピールしていく方法を検討したい。

その他の脱炭素関連の取り組み

- ・非食用米を加工したものしたものを混ぜ、プラスチックの使用量を軽減した歯ブラシを導入している。
- ・連泊のお客様はリネンやタオルの交換を行わないエコ清掃を導入している。
- ・浴衣やアメニティはチェックイン時に必要なものを必要なだけ持って行ってもらうようにしている。実際に、半数程が浴衣を使用しない。
- ・修学旅行へ“すき焼き食べ放題”を提供しているが、用意する白米は一定量とし、それ以上必要になった場合は都度必要な分だけ温めて提供するタイプの白米に切り替えることで、廃棄量を減らしている。
- ・従来はお客様ごとにガスボンベを使用したコンロを設置し食事を個別提供していたが、テーブルごとに大きなパーティグリルで提供する形式に変更した。これにより、誰かが食べきれなかった分を他の人が食べることが可能になり、廃棄量を2割程度削減することができた。
- ・修学旅行の場合、例えば食べ歩きの後に宿泊する場合は夕食の摂取量が少なくなるため、到着前の食事の状況を事前にヒアリングし生徒の空腹度を探っておくことで、廃棄量の削減を試みている。
- ・珈琲を豆から挽くと廃棄物（挽ガラ）が発生してしまうため、可能なところは粉で提供している。



テーブルごとに大きなパーティグリルで提供する形式により廃棄量削減



お米の歯ブラシにより、プラスチックの使用量を軽減

『脱炭素化関連情報の収集方法』

- ・旅館組合や商工会議所などのコミュニティで、良い補助金や取組等があればメールで周知するなどして、定期的に情報交換を行っている。